地方小出版 情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

■第31回地方出版文化功労賞特別賞 受賞――///★☆★

明治からの通史で作家の数々の魅力を伝える「文學の國いわて」

文／岩手日報社論説委員長・菅原和彦

弊社が出版した「文學の國いわて」が第３１回地方出版文化功労賞の特別賞をいただいた。筆者は岩手県盛岡市在住で脚本家の道又力さん。「岩手日報」紙上で２０１３年１月から２０１６年９月まで毎週１回、計１９１回連載したものを加筆、再構成して一冊にまとめたのが同書だ。

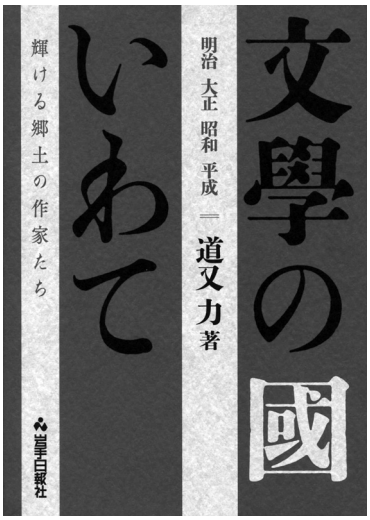
副題に「明治　大正　昭和　平成」「輝ける郷土の作家たち」とあるように、明治から現代まで、岩手の文学史をたどり、多数の作家を取り上げる壮大なテーマだ。とはいえ、内容は堅苦しくない。作家の興味深いエピソードを交え、読者に分かりやすく、関心を持って読んでもらえるよう工夫されている。

例えば、日本初の国語辞書「言海」を独力で完成させた大槻文彦（祖父が一関市出身）。文部省の上司から明治８年に辞書編纂を命じられ、四分冊の最終巻が発行された時には１６年の歳月が流れていた。その間、最愛の妻と娘を病気で失った。そんな大槻の苦闘を紹介する回の締めくくりはこうだ。

妻が亡くなった時、文彦の稿本は「ろ」の部に達していた。文彦は「露命」という言葉に目が留まり、思わず袖を濡らしたという。

「ろ―めい（名）露命　ツユノイノチ。ハカナキ命。」

偉大な言語学者であっても一人の人間。その胸の内が伝わってくる。演劇の一場面を見ているようでもある。脚本家ならではの筆致と言えよう。



【文學の國いわて　明治大正昭和平成　輝ける郷土の作家たち】道又力著／岩手日報社発行／2017年6月刊／ISBNコード978-4-87201-419-8／税込価格3,996円

地元の著名書店員は「文学史にありがちな作品紹介と文学史的評価の概要という構成とは一線を画し」「どのような暮らしをしていたのかという背景までもが、豊富な具体例とともに詳しく収められ」「本書ほど人間味あふれた文学史がこれまで他にあっただろうか」と書評に記している。

さて、道又さんがどうして文学史を連載することになったのか。その経緯を紹介したい。

盛岡には「盛岡文士劇」という舞台公演がある。毎年１２月に行われる恒例行事で、チケットはほぼ即日完売という人気を誇る。岩手在住の作家やアナウンサーに加え、岩手にゆかりのある内館牧子さん、金田一秀穂さんらゲストも出演。私も「新聞社枠」で参加している。そこで出会ったのが、舞台の脚本を手掛け、自ら出演もする道又さんだ。

公演に向けた稽古（２カ月間、週３回）の後は、場所を変え、杯を傾けての懇談になる。ある時、文学全般に造詣が深い道又さんが「岩手の文学通史がない。ぜひやらなければならない。発表の機会はないだろうか」と語った。

そんな話が出たのは、東日本大震災が起きた後だった。文学史執筆を思い立ったのは、大震災の影響が大きいという。「震災による喪失感を癒やすのは、私にとって文学しかなかった。形が失われても、心は残っている。心を伝える最良のものは、文学者たちの作品に他ならない」と道又さんは本書あとがきで披歴している。

岩手で有名な文学者と言えば石川啄木、宮沢賢治。しかし、まだまだいる。文学史を書くことは、多くの作家について知り、再評価する機会になるだろう。そんな趣旨に共感し、論説委員会が受け持つ紙面で展開することになったのだった。

出版は早くから待望されていた

連載中の読者の反応は上々。「連載が終わったら、本にまとめられるのか」との問い合わせが何度も寄せられた。出版は早くから待望されていた。

私の役目は、原稿をチェックし、見出しを付けて編集部門（整理部）に渡すこと。そしてもう一つの役目が写真探しだった。毎回、本の表紙を載せられても読者はつまらないだろう。作家の肖像などが必要だ。だが、連載は明治時代までさかのぼるわけで、資料は簡単には手に入らない。

そのため、作家ゆかりの地にある記

念館や博物館、図書館、さらには遺族に提供をお願いした。現役の作家本人にも依頼。どの施設も、どなたも快く協力してくれた。また、弊社が保管していた写真も、セピア色になっているものを含め多数活用した。この本に収録したことで、貴重な資料の保存につながったと思う。

掲載写真確保のためには、作家ゆかりの石碑なども訪ねた。このちょっとした「文学の旅」で、岩手の豊穣な文学の一端に触れることができた。

さて、豊穣な文学の地ではあるが、連載当時は一つ足りないものがあった。芥川賞作家がいなかったのだ。

直木賞作家は現役の高橋克彦さんを含め何人かいる。しかし芥川賞に関しては、幾人かが候補になったものの、惜しくもかなわなかった。

それがどうだろう。本書の発刊後、立て続けに芥川賞受賞者が出た。第１５７回（２０１７年上半期）は盛岡市在住の沼田真佑さんが「影裏」で受賞。第１５８回（同下半期）は遠野市出身の若竹千佐子さんの「おらおらでひとりいぐも」が選ばれた。豊穣の地に新たな恵みがもたらされた。

労作である「文學の國いわて」は、長く読み継がれていく本だと思う。全国の方も手に取ってほしい。きっと面白く読んでもらえるはずだ。

出版記念祝賀会で道又さんは「１３５人を取り上げたが書き切れておらず、文学人名辞典、文学全集と夢は広がっている」と抱負を披露した。「文學の國」探求はまだまだ続きそうだ。

＊

（すがわら　かずひこ／岩手日報社論説委員長）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率８%）表示です。

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。機会がございましたらぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。

http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html

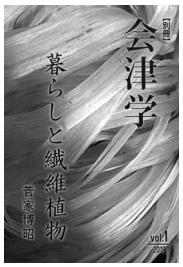
＊検索サイトで「地方・小出版流通センター」とキーワード検索してください。また、右のＱＲコードをスマホのカメラなどを使って、アドレスを読み取ってください。

『比叡山の僧兵たち　－鎮護国家仏教が生んだ武力の正当化』●成瀬龍夫著

中世の寺社が公家や武家と並ぶ強大な権力を保持していたことは、黒田俊雄氏が「権門体制論」を提唱して以来周知のことであるし、思想的には同氏の「顕密体制論」によって新仏教よりも顕密仏教の方が少なくとも中世前期までは社会の大勢を占めていたことも今や定説だ。なかでも南都北嶺といわれる興福寺と延暦寺は多くの「僧兵」（江戸時代の呼称。当時は大衆・衆徒）を保持しており、度々朝廷に強訴したことで有名。あるいは山門（叡山）と寺門（三井寺）との長期にわたる抗争も宗教史上特筆すべき出来事である。なぜ有力寺院が武力を有したのか、著者は、延暦寺創立当初の状況から筆を起こし、権門としての延暦寺の終焉となる信長の比叡山焼き討ちや、秀吉の三井寺闕所事件までを考察の対象としながらその理由を求め、王仏相依の下での「王法護持のための武力の正当化」と結論づけた。神輿や神木を担ぐ強訴は王仏の関係性を確認する儀式的意味合いがあったという。

◆ 1,944円・Ｂ６判・226頁・**サンライズ出版**・滋賀・20181225刊・ISBN9784883251919

『暮らしと繊維植物　－別冊　会津学　Ｖｏｌ．１』●菅家博昭著



福島県の昭和村は、繊維植物であるカラムシを本州で唯一栽培生産しているこもで知られる。その昭和村で著者はカスミソウ農家として仕事をしながら、繊維植物に関する資料を集め、地域の古老から話を聞いて書き留め、古文書を紐解き、また内外の研究者や生産者と交流をしている。農文協から出版された生活工芸双書（全10巻）のなかの一冊『からむし』の著者でもある。本書はその『からむし』執筆を支えた一次資料をもとに編まれたものである。読み進めてみると、市販の出版物はもちろん、日本各地の自治体が編纂したような自治体史や旧家の蔵から出てきた古文書等、あらゆる資料から繊維植物に関わる個所が抽き出され、網羅されているのがわかる。本書のエピグラフには「からむしを中心とした植物繊維に関する調査が今後も深く展開されることを願って第一次資料として次の世代に残したい。さらなる研究の礎として。」と記されているが、まさに圧巻となる、豊饒な、植物繊維研究のための百科事典となっている。

◆ 1,543円・Ａ５判・283頁・**奥会津書房**・福島・20181115刊・ISBN9784901167253

『森へ　句集』●宇多喜代子著

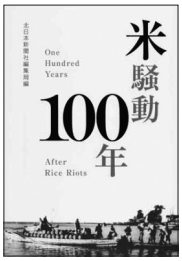
“蛇の手とおぼしきところよく動く”“雨あとの森を背負うて蝸牛”まさに奥深い森に分け入るような情景が浮かんでくる数々の俳句。森閑とした中にも確かな息遣いが伝わってくる。

本書は現代俳句協会特別顧問として多方面で活躍する著者の第八句集。祖母の茶飲み友達であった遠山麦浪という和尚の話を傍で聞き、俳句が面白そうだと直感して、麦浪に手ほどきを受けたのが18歳の時。俳誌「獅林」を経て「草苑」で戦後日本を代表する女流俳人桂信子に師事。2010年、『象』で第35回蛇笏賞を受賞し、現在はその選考委員も務め、既に60年以上のキャリアを誇っている。

本書には2010年から2018年の句が収められ、自然や動物を含め、歳時や農事、さらに戦争についても鋭い視点が光る。沖縄の俳人玉城一香や昨年没した金子兜太への追悼の句も掲載。原生の森を安息の場と思念し、再生のよすがとする著者の思いが静かに心に染みてくる。

◆ 1,944円・四六判・181頁・**青磁社**・京都・20181207刊・ISBN9784861984181

『米騒動１００年』●北日本新聞社編集局編著



大正9年、富山県魚津の漁民の妻たちに発し、全国に波及した米価の暴騰に苦しむ大衆の蜂起。軍隊を出動させ、時の内閣を倒した。それから100年の昨年、地元『北日本新聞』が、米騒動を多角的な切り口でとらえ、現代の社会問題といかにつながっているかを考えた一面連載のキャンペーン、米騒動が社会や文化に与えた影響について新たな視点で開催された滑川市立博物館の企画展に関連した学芸員と近現代史研究者による連載、さらに、ジャーナリストと学芸員によるフォーラム「女一揆　魂を揺さぶられた越中の男たち」の記録を収録する。貧困と格差、揺らぐ民主主義、生存権をかけた闘い、地域の絆。驚くほど今日的課題と類似していることが分かる。巻末に、『北日本新聞』の前身の『富山日報』、『高岡新報』、『北陸タイムス』が騒動の様子を生々しく伝える当時の紙面を収録している。新聞が地域の言論をリードし、米騒動に大きな役割を果たしていたかが実感できる。

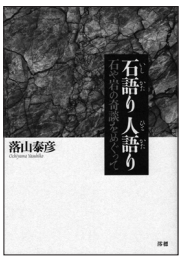
◆ 1,728円・四六判・209頁・**北日本新聞社**・富山・20181217刊・ISBN9784861751066

『心身症と心の病を簡単に治す　－カウンセラーとセラピストに必要な基本知識』●マンフレッド・クラメス著

現在、日毎に増えつつある心身症や鬱病などの精神疾患に、インドの伝統医療であるアーユルヴェーダ理論に基づいてアプローチする統合医療的実践の書。アーユルヴェーダにさほど馴染みのない読者がまず把握しておくべきは、その理論の基本となる五大元素「地」「水」「火」「風」「空」が、世界及び人間存在への解読格子となっているということである。この五大元素は例えば「土」は骨格系に、「水」は血液やリンパ系に、というように心身の器官や状態に対応関係を持つ。そして「風」「空」はまとめてヴァータと呼ばれ、精神疾患や心身症はそのヴァータの増大によって元素間のバランスが崩れた状態と解読される。ドイツ人の著者は、若い頃から仏教思想に惹かれて19歳で来日、禅寺で修行した経験を持つ。その後日本人女性と結婚し、鍼灸や指圧を学んだという。アーユルヴェーダと出会ったのも日本でだ。日本との縁が深く、また日本で心因性の疾病が深刻化している現状を踏まえて、本書は原著をもとに日本人向けに大幅に書き直された。

◆ 2,376円・A5判・158頁・**フレグランスジャーナル社**・東京・20181110刊・ISBN9784894793026

『石語り人語り　－石や岩の奇談をめぐって』●落山泰彦著



かつて豊臣秀吉が大阪城を築城する時各地から石を集めた。芦屋川の上流にある夫婦岩を切り出そうとしたところ岩から血が吹き出した。石工たちは驚き、二度とこの岩を切ることをせず、禁を破れば祟りがあると恐れた…このような、各地の伝説にある岩や、九尾の狐伝説を残す栃木県那須の有名な殺生石、『日本霊異記』にある石を産んだ女人の話、『伊勢物語』のさざれ石等、石や岩をめぐる奇談を集めて物語化、それぞれ、出典や関連エピソードを述べた解説を付す。朝鮮神話やギリシャ神話、中国清時代の『聊斎志異』からも不思議な話が抜き出されている。後半は、ギリシャやトルコ、エジプト、そして沖縄と、石と岩をめぐる旅のエッセイとなっている。中でも興味深いのは、兵庫県の生石（おうしこ）神社の石の宝殿だろう。1500年前から存在していると言われ、ゾロアスター教の祭壇との説もある500トンのこの巨岩が、昨今、パワースポットブームとともに脚光を浴びているのだとか。

◆ 2,160円・A5判・198頁・**澪標**・大阪・20181225刊・ISBN9784860784232

『蒸気機関車を撮るということ』●玉村雅美著

今や日本の鉄道ではほとんど見かけることのなくなった蒸気機関車。その蒸気機関車を追い求めて写し続けてきた写真家によるフォトエッセイ集です。旅のスタイルや、撮影時の心構えなど、様々なことについて語られています。著者は一人旅を愛し、撮影に向かうときにも列車に乗り、車を使わず歩いて撮影に向かいます。ただどんなに入念な準備をしても列車の運行休止などで写真が撮れずに終わることもあります。そんな時にもプラス思考で腐らず次の機会を思い描き、気持ちを切り替えます。上手な写真を撮るだけではなく、撮影旅行自体ひいては人生そのものを楽しむと言う気持ちが伝わってきます。それが25年間自分流の撮影スタイルを貫けた根底にあるのでしょう。収められた写真の中には撮影旅行の途中で出会った風景や人々の姿などの写真も多くあり、旅そのものの楽しみも伝わってきます。そしてもちろん黒煙を吐き出して走る蒸気機関車の魅力も存分に味わえます。

◆2,160円・A5判・101頁・**リーブル出版**・高知・20181220刊・ISBN9784863382374

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2019年1月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４６９　２０１９年１月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-909864-01-7　19/01

◆**子どもと昔話**　Ｎｏ．７８　小澤　俊夫編　Ａ５　79頁　８５３円　小澤昔ばなし研究所［神奈川］　978-4-902875-91-1　19/01

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．５８４　２０１８年１２月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　89頁　３２０円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0768-7　18/12

◆**星座　歌とことば**　Ｎｏ．８７　伊藤　玄二郎編　Ａ５　151頁　１０８０円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0769-4　18/10

◆**道**　Ｎｏ．１９９　木村　郁子編　Ａ４　74頁　１２３４円　どう出版［神奈川］　978-4-904464-97-7　19/01

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．２１８　２０１９年２／３月号　中村　泰子編　Ａ５　80頁　８９６円　フェミックス［神奈川］　978-4-903579-87-0　19/02

◆**レコード・マネジメント**　Ｎｏ．７５　石井　幸雄編　Ａ４　92頁　３０８６円　岩田書院［東京］　978-4-503-21666-3　18/12

◆**アーカイブズ学研究**　Ｎｏ．２９　日本アーカイブズ学会編　Ａ４　155頁　２７００円　岩田書院［東京］　978-4-503-21671-7　18/12

◆**日本宗教文化史研究**　第４４号　日本宗教文化史学会編　Ａ５　88頁　２９１６円　岩田書院［東京］　978-4-503-21672-4　18/11

◆**明日を拓く**　Ｎｏ．２０１　吉田　勉編　Ａ５　94頁　１０８０円　解放書店［東京］　978-4-503-21668-7　18/12

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５７４　２０１９年２月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-21675-5　19/02

◆**子どもと本**　第１５６号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６３７円　子ども文庫の会［東京］　978-4-906075-61-4　19/01

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７５８　２０１９年１月号　三徳庵編　Ａ５　92頁　５４０円　三徳庵［東京］　978-4-503-21659-5　19/01

◆**シネ・フロント**　Ｎｏ．４０２　浜田　佳代子編　Ｂ５　83頁　７５６円　シネ・フロント社［東京］　978-4-503-21674-8　19/01

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５４６　２０１９年２月号　佐藤　友美編　204mm × 108mm　166頁　５００円　東京かわら版［東京］　978-4-503-21673-1　19/01

◆**こどもとしょかん**　第１６０号　張替　惠子編　Ａ５　31頁　７６７円　東京子ども図書館［東京］　978-4-503-21669-4　19/01

◆**俳句四季**　Ｎｏ．４９８　２０１９年２月号　西井　洋子編　松尾　正光編　Ｂ５　160頁　１０００円　東京四季出版［東京］　978-4-503-21665-6　19/01

◆**みんなの図書館**　Ｎｏ．５０２　２０１９年２月号　図書館問題研究会編　Ａ５　72頁　８１０円　図書館問題研究会［東京］　978-4-503-21664-9　19/01

◆**パズル・ザ・ジャイアント**　Ｖｏｌ．３２　ニコリ編　257mm × 149mm　114頁　１４０４円　ニコリ［東京］　978-4-89072-732-2　19/01

◆**おりがみ**　Ｎｏ．５２３　２０１９年３月号　日本折紙協会編　Ａ４　51頁　７８６円　日本折紙協会［東京］　978-4-86540-072-4　19/02

◆**海運**　Ｎｏ．１０９６　２０１９年１月号　日本海運集会所編　Ａ４　132頁　１２９６円　日本海運集会所［東京］　978-4-503-21662-5　19/01

売行良好書　期間：2019年1月15日～2月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2,500円・みんなのデータサイト出版　(2)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(3)『中学生のためのスイーツの教科書』972円・吉備人出版　(4)『東京の森のカフェ』1,404円・書肆侃侃房　(5)『新版　近藤聡乃エッセイ集　不思議というには地味な話』1,404円・ナナロク社　(6)『ムーン・ベアも月を見ている』1,836円・フライの雑誌社　(7)『京都の市電　昭和を歩く』1,620円・トンボ出版　(8)『預言の哀しみ』2,052円・弦書房　(9)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(10)『くらしの中のトイレの歴史』1,620円・ポトス出版　(11)『笑顔の認知症』1,512円・のぶ工房　(12)『台湾ラーメン味仙の秘密』1,404円・ブックショップ「マイタウン」

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４８』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東都寄席演芸家名鑑』2000円・東京かわら版　(3)『短歌ムック ねむらない樹 ｖｏｌ．２』1512円・書肆侃侃房　(4)『近藤聡乃エッセイ集 不思議というには地味な話』1404円・ナナロク社　(5)『本の雑誌　４２９号』720円・本の雑誌社　(6)『東京かわら版　２月号』500円・東京かわら版　(7)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(8)『ニッポン４７都道府県正直観光案内』1782円・本の雑誌社　(9)『箱根・湯河原登山詳細図全１００コース』972円・吉備人出版　(10)『最終警告！本当は怖い、高校の数学』378円・暗黒通信団

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本一センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(2)『短歌ムック　ねむらない樹　ｖｏｌ．２』1512円・書肆侃侃房　(3)『Ｓｏｒａ　Ｆｏｌ　この世界はＶＲ（仮想現実）であり、ゲームである。』1620円・由風出版　(4)『大学による盗骨』1944円・耕文社　(5)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』1,620円・編集工房東洋企画　(6)『調査されるという迷惑』1080円・みずのわ出版　(7)『今、なぜ種が問題なのか』1620円・歴史春秋社　(8)『復興　熊本城　Ｖｏｌ．２　天守復興編　平成３０年度上半期まで』1080円・熊本日日新聞社　(9)『東の飛鳥』1620円・随想舎　(10)『クルーソーを超えた男たち』1512円・南方新社　(11)『埼玉の城』2700円・まつやま書房　(12)『伊藤さん家の母の味』1620円・歴史春秋社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼福岡の出版社、書肆侃侃房（しょしかんかんぼう）さんが、昨年福岡にオープンした本屋＆カフェ「本のあるところajiro」にて、イベント【『ことばの生まれる景色』刊行記念　辻山良雄さんトークイベント「絵と文で本を旅する四十景　福岡編」】を開催するとのことです。「本屋「Title」店主・辻山良雄が、一冊の本とそれを端的に表していると思った一節を選び、画家のnakabanがそこからイメージを膨らませた絵を描く…『ことばの生まれる景色』は、そのようにして作られました。聞き手には、『親子の手帖』などの著書があり、ご自身も本をこよなく愛し、旅する人でもある鳥羽和久さん（福岡・唐人町で学習塾と、本と雑貨の店「とらきつね」主宰）をお迎えし、本書で取り上げた作品を中心に、本を読むということ、本を書くこと、そして本のある場所をつくることについて存分に語り合います。」（イベント案内文より）2019年3月19日（火）20：30～／参加費：1500円。3月13日（水）～3月24日（日）の期間、【ことばの生まれる景色】nakaban原画展が同店にて開催予定です。**【ことばの生まれる景色】**（ISBN978-4-904292-85-3／本体2300円）はナナロク社から発売中です。因みに書肆侃侃房さんは数年前に芥川賞候補作を掲載したことで話題となった福岡発の文芸誌【たべるのがおそい】の発行出版社です。

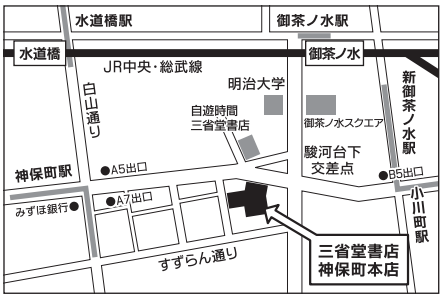
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。